平成２６年度　学力向上アプローチ事業　研究指定校のまとめ

学校名 （児童数）	日野町立日野小学校（５７２人）

（本研究に係る問い合わせ先）
所 在 地：滋賀県蒲生郡日野町大窪３３１番地
電話番号：０７４８－５２－００７３

【研究の目的，研究内容】

（１） 研究主題

自分の考えをもち、進んで仲間と交流することができる子どもの育成Ⅱ ～目的に応じて読む力、理由や根拠を明らかにして説明する力を高める国語科の授業づくり～

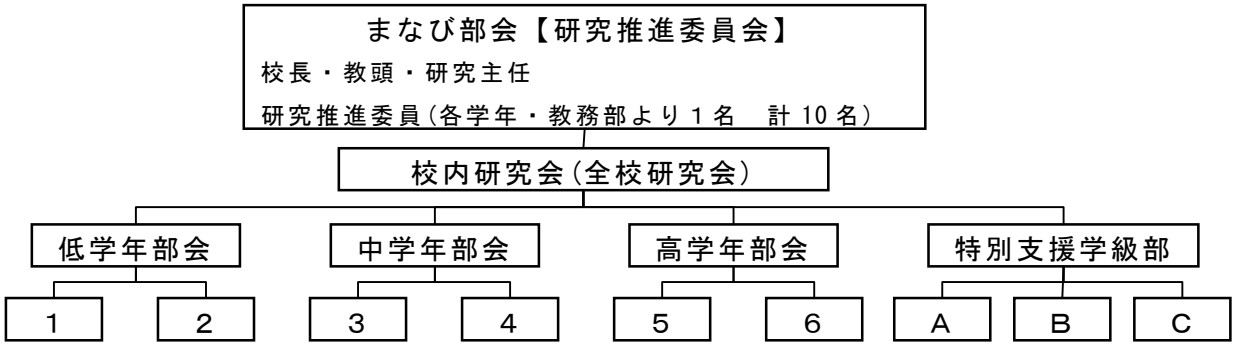
（２）研究主題設定の理由

平成26年度全国学力･学習状況調査によると､本校児童の国語科における学習状況は、Ａ問題、Ｂ問題ともに、全国の平均正答率をやや下回っている。児童は課題に真面目に取り組み、無解答率は前年度に比べ低下した。しかし、Ｂ問題において､「２三」「３三」の記述式設問に課題が見られた。算数のＢ問題についても同様で、記述式設問において正答率が低い結果であった。この結果は、過去の調査結果と同様で､“自分の考えを条件に合わせて記述する”などの「書く力」を高めるための授業改善を全職員が一致して取り組まなければならない課題の一つであることは間違いない。

児童が主体的に学習する力や豊かに表現する力の育成を目指すと言いながらも､「学習の主体者である子どもが、学習の目的を明確に持てないまま指導者側が一方的に課題を与えていた。」や「子どもが持っている考えを他者に伝えることができるような学習展開の工夫ができていなかった。」という意見。このような意見が授業研究会でくり返し述べられてきた。私たちは、授業づくりの原点に立ち返り､『主体的な学習』『豊かな表現力』とは何かについて真摯に向き合い、授業で子ども達に“力”を付けていく責任がある。

今年度も､「目的に応じて読む力」､「理由や根拠を明らかにして説明する力」を高める国語科の授業づくりに焦点を絞り研究を進める。特に、学年の発達段階に応じて児童が主体的に学び、進んで表現しようとする姿や付けたい力を明確にした「単元を貫く言語活動」の充実を図った授業の在り方を追究する。そのような授業によって、自分の考えを持ち、進んで仲間と交流することができる子どもを育成することができると考え、研究主題を設定した。

（３） 研究組織



（４）研究構想

学校教育目標　「かしこく　明るく　たくましく」

＜めざす子ども像＞

かしこく
○めあてをもって学習する子
○あきらめないで学習する子
○しっかり考え、表現できる子

明るく
○いじめを許さない子
○人の気持ちを大切にする子

たくましく
○運動が好きな子
○根気よく最後まで力一杯がんばる子

平成２６年度　校内研究主題

自分の考えをもち、進んで仲間と交流することができる子どもの育成Ⅱ

～目的に応じて読む力、理由や根拠を明らかにして説明する力を高める国語科の授業づくり

国語科の授業改善
○低学年からの発達の段階に応じた「自分の考えの形成及び交流」に関する指導の充実
　★文章の大事な言葉や文を書き抜く　★引用したり要約したりする　★考えたことを発表し合う
○高学年「効果的な読み方」に関する指導の充実
　★目的に応じて、本や文章を比べて読む　★同じ課題で多くの本を重ねたり並行したりして読む
○子どもの成長をみる評価のあり方

言語活動の充実

全校の言語活動 言語環境の整備
○てんびんタイム「考える力」の時間（金曜日）
　★系統的な言語事項、活用力を高める指導
○継続的な音読の活動
　★音読集会（年２回）
　★詩の暗唱
○話し方・聞き方の指導
　★職員室への入退出の約束
　★丁寧な言葉づかい
　★委員会活動の取組
○漢字検定の取組（高学年）

読書活動の推進
○てんびんタイム
　「読書」（月曜日）
　「朝の読み聞かせ」（水曜日）
○学校図書館を活用した授業の展開
　★豊かな読書生活につなぐ
　★目的に応じた読書
○学校図書館司書、図書ボランティアさんとの連携
　★読書集会、おはなし会の実施
　★親子読書の取組

望ましい学習習慣・学習規律
○「家庭学習の手引き」
○「よく学ぶ日野っ子」

安心・自信を生み出す学級経営
○温かく共感的な人間関係の育成
○自己決定の場・自己存在感

家庭・地域との連携
○「元気っ子カード」
○地域学習・ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ

児童の学習状況の分析と課題の明確化
○基本的な生活習慣が身に付いている児童が多く、学級全体の規範意識が高い。
○指示されたことに一生懸命取り組み、まじめに学習することができる。
●計画的に家庭学習に取り組む習慣が身に付いていない傾向がある。
●条件に合わせて自分の考えを書きまとめることが苦手。
●理由や根拠を明らかにして、自分の考えを説明したりまとめたりすることが苦手。

（平成 25-27 年度　県教育委員会指定「学力向上アプローチ事業」の取組を中核として）

（５）１年間の主な取組の経過

4月16日（水）	今年度の研究についての確認	職員会議
4月22日（火）	全国学力・学習状況調査（6年）の実施 町内一斉標準学力調査（2～5年）の実施	
5月28日（木）	単元を貫く言語活動についての研修	校内研究会
6月25日（水）	「4年2組物語博物館を作ろう」（4年）	授業研究会
7月24日（水）	標準学力調査について結果の分析	
7月29日（火）	標準学力調査の結果分析と検討 2学期からの研究の方向性の修正・確認	校内研究会
10月1日（水）	全国学力・学習状況調査の結果分析 下半期における学力向上策の協議	校内研究会
10月3日（金）	「お気に入りの本で『本の紹介カード』を作ろう」（3年）	授業研究会
10月14日（火）	「物語のおもしろさを推せんする本の帯を作ろう」（5年）	授業研究会
10月29日（水）	「のりものずかんをつくろう」（1年）	授業研究会
11月5日（水）	「ごみ問題を訴えたい！！」（6年） （学力向上アプローチ事業実証授業）	授業研究会
11月7日（金）	第1回日野小ノート展	
12月	アプローチ事業　6年生国語科評価問題の実施	
1月7日（水）	今年度研究事業の振り返り	研究推進委員会
1月29日（木）	「へんしん大作戦！虫の道具をかりたら、どんなことができるかな？」（2年）	授業研究会
1月30日（金）	第2回日野小ノート展	
1月～2月	つまずき診断テストの実施（3～5年）	
2月	次年度研究の方向性確認	次年度構想検討会議

（６）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①調査結果を踏まえた研究計画と成果の検証

・全職員が今年度の学力調査問題を解き、調査結果の分析を行った。その上で、本校児童の良い点や課題を把握した上で、今年度の授業計画を立てた。合わせてＦコンパスを活用し、学力および生活に関することについて、校内組織をいかし、課題を改善するための実践を計画し、全校で取り組んだ。

校内組織…職員がいずれかの部会に所属する。

いきいき部会 → **くらし部会**…忘れ物をなくす。
→ **なかま部会**…自信を持たせる。
→ **まなび部会**…不要な物をとる。短文を作る。

②「付けたい力」を明確にした授業づくりと評価問題

・すべての学年で、「読むこと」の指導事項「自分の考えの形成及び交流」に重点を置き、『単元を貫く言語活動』を設定して授業研究を行った。指導案検討から「プラス１問」の評価問題を作成し、実践後に取り組むことで、授業づくりにおける PDCA サイクルによる授業改善を図った。

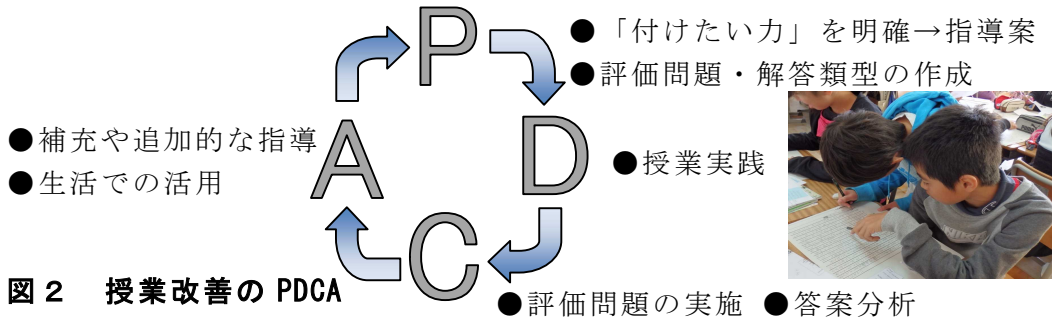


図２　授業改善の PDCA

③基本的な学習基盤を育むための取組

・基本的な学習基盤を養うことを目的としてノート指導の充実を図った。「めあて、自分の考え、友だちの考え、ふり返り」のある授業展開を計画し、児童がノートに書く活動を計画的かつ積極的に取り入れた。その成果を交流するための「日野小ノート展」（11月・1月）を開催した。

図３　ノート指導のための掲示物

・朝のてんびんタイムにおいて「考える力」を設定し、年間を通じて国語、算数において自分の考えを書き、交流する学習に取り組んだ。また、宿題においても、例えば漢字の反復練習ではなく、生活の中での活用を意識さるような書き取りをする工夫等、各学年の実態に応じて取り組んだ。放課後学習「日野小てらこや」の取組で、基礎的基本的な指導の充実を図った。

④総合教育センター、研究指定校との連携

・6年生においては、アプローチ事業の実証授業として資料を効果的に使って、自分の考えを記述する力を高める授業の在り方を探った。授業を計画するに当たっては、共同研究校の授業研究会に参加し合うなど連携して取り組みを進めた。

【研究成果と課題】

（１） 研究成果

① 評価問題をいかした授業改善の視点

実証授業を行った6年年の評価問題の結果は、下表の通りである。

問題	出　題　趣　旨	正答率
1	１文を２文に分ける（短答）	４７％
2	論の組み立て（選択）	９０％
3	呼びかけ文を書く（記述）	５０％

問題３においては、無解答はほとんどなかった。解答類型による誤答分析から、事実や自分の意見は記述できていたが、呼びかけ文にできていない誤答が目立った。評価問題から指導案を作成し、実践後に評価問題で分析することで、例えば補充的な指導を実施する等、今後の指導にいかす授業改善のサイクルが進められることがわかった。

② 「学力向上」に向けた意識の高まり

学力調査等の分析結果を共有し、本校児童の課題を全職員が把握した上で、宿題の出し方やノート指導など職員が一致して学力向上に向けて取り組む雰囲気がさらに高まっている。また、「日野小てらこや」等、児童が意欲的に学習できる実践の工夫が組織的に取り組めた。

（２） 課題など

① 研究について

目的を持って読む力、理由や根拠を明らかにして説明する力を育むために「単元を貫く言語活動」を位置付けた授業研究を進めたが、自分の考えを書く力を高める授業の在り方や系統的にその力を高める取組についてはさらに研究を進める必要がある。評価問題をいかした授業改善のサイクルをさらに推進させ、他校への発信も担っていく必要があるだろう。

② 学力向上について

今年度も、基礎的・基本的な内容の理解と定着、自主的な学習態度の育成、学習意欲の向上、家庭との連携など多様な取組を実践してきた。個々の取組が児童の「学力向上」という目的の達成のため学校、地域、家庭が連携して今後も一意専心、継続して取り組むことが大切である。